
僕の林檎

MiYA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕のエリン

【Nコード】

N0531S

【作者名】

M i Y A

【あらすじ】

思い浮かんだ事を書いて見ました。

林檎の種を 植えました

早く大きく 成るように
たくさん たくさん お願いした

林檎の種が 芽をだした

それは それは 嬉しくて もっと もっと 大きく成るように
お願いした

林檎の種は すくすく伸びて
大きな 大きな 木になった
それから それから たくさん実が成るように お願いした

林檎の種は 林檎の木になり
甘い香りの 真っ白な花がたくさん咲いた

もうもう 美しくて
うっとり 見とれる程 美しくて

このまま ずっと このままって そう思った

その夜 大きな風の音がして
空の向こうから 嵐がやって来た
嵐は3日 吹き荒れて

僕は一步も外へは出られず
ただただ 目を閉じて 美しい林檎の木を思い浮かべた

その時だけ 安らいで
その時だけ 怖くなかった
嵐が去った後

僕は大きく急いで林檎の木に向かった
早く早く もっと早く

だけど 見上げた 林檎の木
熟れた実を一つ ぶら下げ今にも 倒れそうに 朽ちていた

嘘だ嘘だ こんな嘘だ

だけど その林檎の実
腐って 落ちた

僕の事を 嘲笑うかのように

僕の目の前に 腐って落ちた

さようなら 美しい林檎の木

僕は 真っ白な花を 纏った 美しい君を 決して忘れない

さようなら 美しい林檎の木

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0531s/>

僕の林檎

2011年10月8日21時46分発行